

コロナとビジネス。今を生き抜き、次世代のブレイクスルーを実現

この7月中盤よりコロナの感染拡大が加速していますが、本マネジメントは、「軽症での感染」を20-40%のピークに持っていき、集団免疫から終息させる事が理想です。何故なら、ワクチン実用承認に2022年辺りまで掛かる可能性があり、コロナによる死亡リスクは、経済恐慌による死と他疾患による死のリスクとのバランスを取っていく必要があるから。

現状、免疫力の高い夏期に於ける若年層感染は、冬期に於ける高年層の感染よりも重篤リスクが低い。加味すべき要素は、医療崩壊による死亡率増加の回避。同時に有効なワクチン実用化と軽症感染による集団免疫のタイムスケジュールを予測しつつ、経済恐慌リスクの回避を行う事です。単純に感染拡大を悪とする事、は間違いかも知れません。

「時価総額」最大化のパラダイム

先日、テスラが時価総額でトヨタ自動車を抜き世界一の自動車会社になったとのニュースが入りました。売上利益、販売台数含め、現時点の業績では、赤字続きであったテスラはトヨタの足元にも及びません。時価総額は「株価×株数」であり、株価は将来への期待感が重要な要素であり、このルールの下、テスラの評価が勝っていたという事。

ここから読み取れる一部は、(直近トップ40に現在の日本企業は一切入っていませんが)世界の時価総額は、北米金融界のルールが前提である事。ある意味で、ルールメイカーが市場をつくり資金調達に有利になる事で、「張子の虎が虎になる」。株式市場から資金調達等を行い、実際に力を付ける事が現在の市場の現実です。

いま一つは、新型コロナ対策含め、自国通貨を擦りまくった世界各国のマネーが一部投資先へ極集中しているという事。今後、通貨の価値下落、更にそのマネーに支えられた株価下落含め、経済恐慌リスクさえ孕んでいる事を示唆しているのかも知れません。

通貨は相対的な価値であり、絶対的なものではありません。絶対的価値は、その時の富ではなく、富を生み出す「思想」と「仕組み、人財、循環する資本」。正しいバランスで、「思想」と「仕組み、人財、循環する資本」が育まれていく必要があると思われます。

現パラダイムの限界

AIによるイノベーション、実社会への実用適用、データベースの自己進化に於いて、北米とそれを追う中国が圧倒的に先行する現状ですが、今後の経済は「AIを制する者が、世界を制す」と言われます。(*)

*「AI世界秩序」(李開復 著)に、AI勢力の現状が良く纏められています。

5Gから更にX Generationに於けるAIがマネジメントする経済では、若年層の人口比と増加のみが成長性を図る指標ではなくなります。

AIによって生じるパラダイムが正しい方向に向かう為にも、技術の正しい進化を促しつつ、同時に新たな時代に向けた日本始め世界が共通の「思想」が熟成されていかなければいけません。

日本の強みは、集中力と一丸力とスピードです。それにより明治維新と戦後の復興と2度の奇跡を起こしました。3度目は今、世界に於けるある種の役割があるのかも知れません。

IT 情報通信と AI ディープラーニングの幕開けによって、効率は極限にまで追求されつつ、インプット情報は光のスピードで最適なアウトプットを生成していきます。社会の多くの選択と動作の役割、又仕事は、人間以外の無生物が代替する様になります。今後、その生成サイクルにコミットするもの 1%と、それ以外の 99%の格差は、極大化し、拡大は加速します。民主社会では、1%の超富豪でなく 99%の大衆が政治を動かすとすれば、結果、富の再配分を為すべく、国家による社会主義的な民主主義へと移行するのかも知れません。（「国家社会主義」ではない。）

「RIGHTS MANAGEMENT」の時代

人々は、生活の為に仕事を越え、生きる意味を求めます。経済の価値観は、「時価総額」最大化ではなく、「地球での共生」へと向かいます。益々、人間にとって「メッセージ」が重要になります。

その成果物、「コンテンツ」の RIGHTS MANAGEMENT に新たな役割が生じます。RIGHTS MANAGEMENT のベクトルも、正しい方向へ向けられなければいけません。現パラダイムの波に乗りつつ、将来パラダイムの創出への貢献を目指しながら。

成長には、ビジョンと計画、気力と合わせ、タイムリーなリソース拡充が必要ですが、ICA に於いては、当初、情報通信のインフラ活性化に必要なコンテンツを取り扱い、徐々に利益が上がり出した時期、メインバンクが動き、住友商事や大日本印刷等が投資資本を入れました。当時、コンテンツのマネタイズに必要な環境は、大手通信 3 キャリアが提供し、キャリアはそのコンテンツによって通信インフラを拡充してきました。コンテンツとインフラは WIN=WIN の関係です。

スマートフォンの国内普及によって、インフラは閉ざされたセキュアなものから解放へと向かいます。コンテンツのプラットフォームは キャリアからアップルと google 等グローバル・プラットフォームに移行し、その「手のひら」上でビジネスが廻る様になります。キャリアによる閉ざされたセキュアな環境が崩壊し、コンテンツのマネタイズ、クリエイターへの還元は、RIGHTS MANAGEMENT のプレイヤー自らがつくり出さなければいけない状況となりました。

RIGHTS MANAGEMENT に於いて、デジタルの流通と宣伝インフラの可能性を模索し、新たにフィジカルにて物流インフラの構築に努めてきましたが、2020 年の今日、偶々、新型コロナにより「X Generation」に向けた「非接触」型社会への移行が加速する中、フィジカルとデジタル両面で 事業ベースの再構築を行う機会が与えられました。

コンテンツは、フィジカルに於いては、実店舗の物流網の整備、活性化。E コマースによる流通の立ち上げ。デジタルに於いては、実店舗とコンテンツ配信の新たな価値創出。将来、サブスクリプションによる著作権保護とマネタイズをシミュレーションし、実現を目指します。